

ネパールとタイの旅

右城 猛

1. まえがき

2005年11月17日から7泊8日の日程でネパールとタイを旅行した。

災害管理に関する国際会議 DiMAC-2005 が、11月18日から3日間ネパールの首都カトマンズで開催されるので、それに参加することが主たる目的であるが、併せてカトマンズ盆地、ポカラ、そして飛行機を乗り継ぐタイを観光してきた。

4年前にカトマンズで開催された「地すべり対策に関する国際シンポジウム」に参加したとき、もしも今度来る機会があれば家族と一緒に来たいものだと考えていた。長女の和恵は会社勤務をしているので無理であったが、妻と大学生の怜佳は連れて行くことができた。

国際会議に参加するために日本からの参加者は、愛媛大学の小松学長夫妻、矢田部教授ら総勢24名であった。

観光地

- 17日 カトマンズ(ワヤンブナート, ボダナート)
- 18日 カトマンズ(ダルパール広場) 国際会議
- 19日 ナガルコット, バクタブル, パタン
バシュパチナート, 食事会
- 20日 マウンテンフライト, 技術交流会
カトマンズ(バザールとタメル地区)
- 21日 ポカラ(チベット村, パタレ・チャンゴ)
- 22日 ポカラ(ペワ湖)
- 23日 バンコク(ワット・アルン, 王宮)
バンパイン宮殿, アユタヤ



東アジアの地図



カトマンズの地図

2. カトマンズに到着

17日午前1時25分、関西空港からタイ航空TG673便で飛び立つ。6時間後にバンコク国際空港に到着。乗り継ぎのためバンコク国際空港で5時間過ごし、タイ航空TG319便で予定より1時間遅れの13時30分にカトマンズ・トリブヴァン国際空港に到着。日本との時差は3時間15分。関西空港を出発して15時間が経過している。

空港ではネパール工科大学のパタライ Bhattarai 学長の出迎えを受けた。宿泊先のラディソンホテル・カトマンズに到着したのは14時30分。



カトマンズ国際空港に到着(日本時間 16:20)



パタライ学長からいただいた歓迎のレイ



14時45分、ラディソンホテルに到着。左より大西一賢君、山本浩司さん、山下佑一さん、怜佳、絹枝(日本時間 18:00)

3. スワヤンブナート

事前に予約してあった現地の旅行会社の案内でスワヤンブナートを見学する。ガイドは日本学校で教師をしているというビピンさん。私たち家族と大西一賢君の4名で行く予定であったが、以前に愛媛大学に留学で来られていたスリランカのジャヤラスさんも同行することになった。

スワヤンブナートはカトマンズ市内の北の小高い丘の上にあるネパール最古の仏教寺院。野生の猿が多いのでモンキー・テンプルとも呼ばれている。



仏陀の前で妻に説明するガイドのビピンさん



参道にある土産物店



丘の頂上には、ブッダの目が描かれたストウーパ(仏塔)が建っている。日本では形が変化し、五重塔になっている。

4. ボダナート見学

スワヤンブナートからボダナートに車を走らせる。途中、私たちを乗せた車が男女相乗りのバイクと正面衝突するトラブルがあった。

ボダナートはネパール最大のストウーパが建ち、チベット仏教の聖地とされている。ストウーパの周りには、ゴンパ(僧院)やチベット人の土産物店、住居が建ち並んでいる。

ストウーパの回りにタンカを描き、販売している店が1軒あった。どのようなタンカに値打ちがあるのかを教わる。



ストウーパの上に登って記念撮影。左より大西、ジャヤラス、私、絹枝、怜佳



ストウーパの周りの土産物店



マニ車。1回まわすと1回経文を読むのと同じ



巨大なマニ車



修行をしている子供の仏教徒



タンカを描いているところを見学

5. ホテル近くのレストランで夕食(17日夜)
道路が渋滞していたので、ホテルに帰る頃にはすっかり暗くなっていた。

ラディソンホテルのすぐ前に立派そうなレストランを見つけたので、ジャヤラスも誘って食事をすることにした。



写真は翌朝に撮影したレストランの入り口



階段を二階に上がると、なんとそこは屋上。野外レストランになっていた。日本より温暖とはいえ、夜は冷え込む。薪で暖をとりながらネパールのディナーを食べる。思っていたよりもはるかに美味しかった。



ネパール料理は美味しい

6. ラディソンホテル

ラディソン ホテル カトマンズは、空港から約25分、タメル地区の王宮の近くにある高級ホテル。今回の国際会議の会場であり、日本からの参加者は全員このホテルに滞在していた。



ラディソン ホテルの正面



私たちが宿泊していた部屋



ホテルのロビー



朝食も豪華

7. ダルバール広場(18日午前)

国際会議が始まる11時までの時間を利用して、タクシーでカトマンズのダルバール広場に出かけた。ダルバールとはネパール語で「宮廷」のこと。マッラ王朝の時代の中心地。



ダルバール広場(旧王宮前の広場)



マジュ・デガ寺院



すごい数の鳩



カーラ・バイラーヴ。シヴァ神の石像



クマリの館。手前の箱にお金を入れると，奥の3階の窓からクマリが顔を出して見せてくれる



絵はがき。クマリの撮影は禁止されている。



カメラを首から吊り下げたいつものスタイル



ダルバール広場の隣にある「インドラチョーク」(青空市場)



クマリの館の正面。館の入り口でクマリの絵はがきを売っていたおばさん



ククリナイフを買った店の主人



装飾具を値切って買う。半値以下になる。



オープニングセッション終了後に記念撮影

8. 国際会議 DiMAC2005(18 日午後)



11 時からのオープニングセッションには、ネパール皇太子・皇太子妃が揃って出席された。会議には多数の報道関係者も詰めかけており、翌日の新聞では各紙が会議の様子を一面記事で報じた。また、国営テレビでも会議の様子が放映された。



壇上の小松愛大学長



壇上の矢田部教授と高橋教授



オープニングセッションの後、ホテルの中庭で立食ビュッフェ形式の昼食。



午後にはテクニカルセッションが行われ、日本人では林氏、稲垣氏、そして大西君がこのセッションで発表した。ジャヤラスに手伝ってもらってテクニカルセッションの準備をしているところ。



夜はホテルの中庭でレセプションパーティーが行われた。パーティーで談笑する山下さん、矢田部先生、絹枝、怜佳



ネパール国王と王妃の写真。セッションの座長



左よりジャヤラス、山中先生、岡村先生、筆者、須賀夫妻



国際会議の論文集には、第一コンサルタンツが投稿した下記の2編の論文が掲載された。

論文 An experimental study related to rock fall movement mechanism, Takeshi, Ushiro et. all.

論文 Effect of surface soil over the bedrock on the rebound speed of falling rock, Takeshi, Ushiro et. all.

論文をテクニカルセッションで大西一賢君が、この日のために特訓した英語で発表した。落石実験の様様をビデオで紹介したのが大変好評であった。



左より山下、矢田部、小松学長夫妻、ネパール工科大学学長夫妻、筆者、ネトラ、絹枝

9. ナガルコット(19日朝)

ナガルコットはカトマンズから東へ35km離れた標高2100mの丘。東の方にヒマラヤ山脈が開け、日の出日の入りの展望台として有名。

事前に予約してあった旅行会社の車で朝の5時にホテルを出発。約1時間で到着したが、曇っておりヒマラヤ山脈、朝日ははっきり見えない。



国際会議に参加したバングラデッシュ大学の先生と生徒(名刺交換で判明)も来ていた。



田舎の子供達。笑顔がとても良い。50年前の日本の田舎で見かけられた風景と似ている。



展望台の傍にあるヒマラヤホテル

10. バクタプル(19日午前～午後)

バクタプルはカトマンズから 15km ほど東にある。15～18 世紀のマッラ王朝時代に王国の首都の一つとして栄えたネワール文化の町。ナガルコットの帰りに見物する。入場料は 10 ドルと高い。バクタプルにはダルバール広場、旧王宮、トウマディー広場、タチュパル広場がある。



山の斜面には棚田が広がって、日本の田舎の風景とよく似ている。11月というのに桜の花が咲いていた。



ダルバール広場



ナガルコットから帰り農家の女性に会ったので、アメ玉をあげるととても喜んだ。



旧王宮の入り口。銃を持った兵隊がいる。



旧王宮の中にある王様の専用水浴場



メインストリート



ダルバー広場の奥にあるシバ・パルパティ寺院



タチュパル広場。14世紀に造られたバクタプルで最も古い広場。広場を囲む街並みは伝統的なネワール建築の建物が多く、窓の装飾が美しい。



シバ・パルパティ寺院の屋根を支える支柱には、動物たちが交尾している彫刻が施されている。



ネワール彫刻の最高傑作・孔雀の窓



ダルバール広場のストゥーパ



孔雀の窓がある土産物屋



タチュパル広場では縦笛を売っていた



レストランの二階のテラスからの眺めは最高。



トウマディー広場のニヤタポラ寺院。1702年にマツラ王により建立されたカトマンズ盆地で一番高い30mの寺院。「ニヤタポラ」とは、「五重の屋根」という意味。



いつもの観光スタイル



ニヤタポラ寺院の階段の上から眺めたトウマディー広場。左の建物がバイラヴナート寺院。右の建物がレストラン。



広場の様子



左側には陶器を焼く窯がある



陶器を天日で乾燥させている



髪を洗っている女性

11. パタン(19日午後)

パタンはカトマンズからバグマティ川を渡った位置にあり、15～18世紀のマッラ王朝時代に王国の首都の1つとして栄えたネワール族の町。

ネワール族は彫刻、絵画などの芸術に秀でており、芸の町としても有名。



ダルバール広場



ダルバール広場にあるクリシュナ寺院。2階にクリシュナ、3階にシバ、4階にブッダが祭られている。



旧王宮を改装してつくられたパタン博物館



地下水を利用した洗濯場

12. パシュパチナート(19日午後)

パシュパチナートはガンジス川の支流の聖なる川とされているバグマティ川の川岸に建てられたネパール最大のヒンズー教の寺院。



右岸の川沿いのアルエガートと呼ばれる火葬場



バグマティ川で遺体を清めてから火葬する。アルエガートは6つあり、常時どれかのアルエガートで火葬が行われている。遺灰はバグマティ川に流される。



川の左岸の斜面にはエッカダス・ルドゥラと呼ばれる白い祠がたくさんある。



エッカダス・ルドゥラの中にはシバ神の象徴であるリングが祭られている。



川の右岸にはマザーテレサが建てたという説もある老人ホームがある。



老人ホームの内部



ガイドに通訳をしてもらって老人たちからいろいろ話を伺う。

13. 小松学長を囲む食事会(19 日夜)

カトマンズでは最高級ホテルとされているドワリカホテルで、日本からの参加者によって愛媛大学の小松学長を囲む食事会が開かれた。

ホテルの外装には、ネパール彫刻が施され、まるで世界遺産の建物のよう。料理も素晴らしい。

各人に配布された料理の献立表は、記念に持って帰るようにと各人の名前が For T.Ushiro のように印刷されていた。心憎い気配りである。



小松学長夫妻



ネパール酒をコップに注ぐ女性。上手にコップに注げるには相当訓練が必要なのだろう。



怜佳が手に持っているのが献立表(お品書き)

14. マウンテンフライト(20 日午前)



ブッダ・エアーの小型プロペラ・ジェット機に乗って、1 時間ヒマラヤ山脈を見物するツアー。料金は一人 1 万 4 千円。



飛行機の窓は片側に 8 個あるので、定員は 16 名。



奥の一番高い山がエベレスト。カトマンズ空港から飛び立ち、ヒマラヤ山脈に沿って南側を東に向けて飛行し、エベレストまで行って引き返す。行きは左側、帰りは右側の座席からヒマラヤ山脈が見える。エベレストの横まで来ると、交代で一人一人コックピットから外を見ることができる。



カトマンズ空港に無事に着陸。

15. 技術交流会(20 日昼)

日本技術士会中・四国支部の会員 5 名とネパール技術者協会との技術交流会を、ラディソンホテルの会議室で 11 時から 12 時まで行い、12 時からホテルのレストランで昼食会を行った。

ネパール技術者協会は、大学、官公庁、民間の技術者より構成されたネパールで最も権威のある組織ということであった。



会議の様子。自己紹介の後、意見交換を行った。



ネパール技術者協会の Saroj Kumar Devkota 会長に高知県技術士会の会報 VOL.17 を贈呈したところ、英語版を要求された。年 1 回、四国 4 県技術士会で英語版の会報を作成し、ネパール技術者教

会に進呈すること，土木技術に関するセミナーを近い将来カトマンズで開催することを約束した。



会議参加者全員で記念撮影



ネパール技術者協会のメンバーとラディソンホテルのレストランで昼食会



ジャパニーズスタイルでビールを勧める。私の右隣は以前愛大に留学していたことがある Kishor Bhattaraj 氏



再会を約束してのツーショット

16. バザールとタメル地区(20 日午後)



技術交流会の後，家族 3 人でホテルから徒歩でバザール，タメル地区へ行く。



途中にある王宮の警備員と話して記念撮影



人でごった返しの状態のタメル地区



地元の子供に話しかける怜佳さん



「おふくろの味」というレストランで「うどん」巻きずしを食べる。



サドゥー(ヒンズー教の行者)の格好をした乞食。写真を撮ると、モデル代を要求してきた。



ホテル近くに紅茶専門店があったので、そこで土産用に紅茶を買う。紅茶といえばヒマラヤ山麓のダージリン・ティーが有名であるがネパール・ティーもとても美味しい。



日本食を食べた店



ダージリンの位置図

17. 懇親会と慰労会元留学生(20日)

20日の夕方、ラディソンホテルの中庭で、元留学生との懇親会を開く。4年前と同様に愛大に留学した経験がある数名と食事をするのかと思ったら、元日本へ留学した経験のあるもの、あるいは

はその関係者とのパーティーで、たくさんの方が集まっていた。その中の一人に愛大農学部で留学した経験者で、高知大学農学部の松田先生にとっても世話になったという人がいた。



元留学生との懇親会



20日はカトマンズ最後の夜。明日はポカラへ観光に行く組と、日本へ帰る組とに別れる。山本さんと矢田部先生が泊まっているホテルの702号室に集まって慰労会。ウイスキー、ビール、つまみは矢田部先生と中島さんが事前に買い出しに行って準備をしてくれていた。途中で帰られたので写真に写っていないが小松学長夫妻も来られていた。カラシッターを切ったのは高橋先生。

ベッドに強いてある絨毯は、山本さんが1500ドルのものを1000ドルに値切って買った代物。

18. ポカラ(21~22日)

21日、カトマンズ空港7時30分発の飛行機でポカラ観光に行く。ポカラ観光のメンバーは須賀夫婦、増田教授親子、名古屋工業大学の学生の石田さん、大西君、それにわが家の総勢10名。

ポカラはカトマンズから西へ240km離れた標高850mの盆地に開けた町。標高8000m級のアンナプルナ連峰を間近に眺めることができる。



早朝にもかかわらず矢田部先生と中島さんは、ポカラ観光に行く10名を見送ってくれた。



飛行機はヒマラヤに沿って西に飛行。マウンテンフライトである。世界一素晴らしい飛行経路。



ポカラ空港に到着



ペワ湖をイカダで渡って、対岸にあるフィッシュホテル・ロッジに行く。



ペワ湖の景色は最高



日本の皇太子や英国チャールズ皇太子などここに来た著名人の写真がフロントに飾られている



フィッシュテル・ロッジには、夕食を食べるために4年前に来たことがある。



ペワ湖



私たちの宿泊したロッジ



チベット村のカーペット製造工場を見学



庭園には沢山の花が咲いている



木綿のつむぎを実演



ガイドブックには、ペンやチッシュペーパーと土産物と物々交換をしてくれると書かれていたが、実際には追い金を要求された。



ペワ湖の湖畔の休憩所



チベット村の近くにあるパタレ・チャンゴ



増田先生のグループと大西君は朝日を見るために標高 1592m のサランコットに行ったが、私たちと須賀夫妻は、6時 15 分からボートに乗ってペワ湖で日の出を待つことにした。



この滝に、デビットという観光客が恋人を道連れにしてこの滝壺に身投げして姿を消したという伝説がある。別名はデビンの滝。



ヒマラヤの中でも、際だって美しいのがポカラのシンボル、マチャプチャレ。外がまだ真っ暗な6時、昨夜予約しておいたボートに一眼レフのデジタルカメラを持って乗り込んだ。日の出と共にマチャプチャレが朝日に照らされて真っ赤に燃え上がり、太陽が昇れば雄姿を湖面に映し出すはず。次々と自然が織りなす神秘的な光景をカメラに納めるつもりであったが、いつまで待ってもヒマラヤは雲に隠れたままで姿を現すことはなかった。そのうちに、ペワ湖一面に濃霧が立ちこめて視界ゼロの状態になった。乾期の11月にポカラを訪れると、真っ青に澄み切った空と美しいマチャプチャレを眺められると信じていただけに残念であった。



ポカラ空港で待機。



フィッシュテル・ロッジのレストランで朝食。4年前はディナーのためにこのレストランに来た。



ポカラ9時発の飛行機に乗るため8時にホテルを出発。ところが、濃霧のために飛行機は出発しない。ポカラ空港で待機する。ネパールではよくあることらしい。カトマンズ発バンコク行きの飛行機に乗れなくなるのではと心配になる。



空港の店舗で、チベット村で作られたチベットの防止を試着。よく似合う。



ターミナルのテラスに出て、飛んでくる飛行機を待つが、飛行機が来る様子はまったくない。乗る飛行機が来ないと、カトマンズに帰ることができない。



トランプをして遊んだりしながらターミナルの待合室で過ごす。



待ちに待ったブダエアーの小型プロペラジェット機がポカラ空港へやって来た。



約6時間後ようやく飛行機が飛んで来て、それに乗ることができた。



雲の上はいつも快晴。ヒマラヤがくっきり見える。



カトマンズ・トリブヴァン空港 13時40分発バンコク行き TG320 便も何かのトラブルのため遅れていた。このため、運良く予定していた飛行機に乗ることができた。

さらにラッキーであったのは、ビジネスクラスのシートに座らせてもらえたこと。隣の席に座っている手前の男性は、建設機械では世界トップメーカーであるコマツのセールスマンで、世界各地を回っているとのこと。日本各地も回っているらしく、知識が非常に豊富であった。

奥の男性はデザイナーで、自分がデザインしたものをパソコンの画面に表示して見せてくれた。

ビジネスクラスは世界を股に掛けて活躍しているビジネスマンが利用しているということを実感することができた。

19. バンコクのバイヨクスカイホテル



バンコクでは、繁華街の中心にあるバイヨクスカイホテルに宿泊する。タイでは一番高い88階建ての高層ホテル。



ホテルの展望台から見た夜景。バンコクは人口640万人の大都会。高層ビルも林立している。



ホテルの部屋は超豪華。寝室，書斎，リビング，洗面所など部屋がいくつもある。部屋の中に廊下もある。



ホテル近くに市場があったので，そこでショッピングをする。ネパールに比べて安い。200円で質の良いTシャツが買える。ネパールでは生地が質が悪いのに500円くらいしていた。観光客用に値段を高くしていたのだろう。



展望台から早朝に眺めた市内の景色

20. バンコク市内観光

タイは昨年(2004年)家族旅行で来ていたが，大西君や須賀夫妻も経験がないということで一緒に観光することにした。

ところが，須賀さんはポカラで食あたりをしたらしく下痢がひどいというので，午前中のバンコク市内観光はせずにホテルで一人静養し，午後から合流することになった。



最初の観光地ワット・アルンに向かう。



バンコク市内の西を流れるチャオプラヤー川。対岸には，ワット・アルンが見える。



チャオプラヤー川を水上バスで渡る。



広角レンズを付けたカメラで撮影



ラマ3世によって建造されたワット・アルン「暁の寺院」の入り口にある寺院



ヒンズー教の神々(戦士)が塔(国)を支えている。



中国製の陶器の破片で覆われた高さ 79m の仏塔。これがワット・アルンの目玉。



ワット・プラ・オケ エメラルド寺院
白壁に囲まれた22万m²の敷地に建てられた王朝の守護寺院。ラマ1世が1782年に建立。本尊仏はエメラルド仏(エメラルドはタイ語で緑色)。



エメラルド寺院の入り口



エメラルド寺院



エメラルド寺院の入り口

21. パンパイヤ宮殿

タイ、中国など、各国の素晴らしい建築美が競演する歴代の王たちが野津を過ぎた豪華絢爛な離宮。離宮にはパビリオンと呼ばれる5つの館があり、一部が一般公開されている。



パンパイヤ宮殿内の庭園



パンパイヤ宮殿内の庭園内にある橋



中華様式のパンパイヤ宮殿



22. アユタヤ日本人町

14 世紀中ごろから 18 世紀頃までアユタヤにあった日本人町。最盛期で 1000～1500 人の日本人（タイ族などの使用人を除く）が住んでいた。

日本の戦国時代、特に関ヶ原の戦いの後、主君を失った浪人が流れてくるようになった。当時ビルマ（ミャンマー）王朝からの軍事的圧力に悩まされていたアユタヤは、実戦経験豊富な日本人兵を傭兵として雇い入れることでこれを阻止しようとしたねらいがあった。

アユタヤ日本人町の知事をしていたのが山田長政であった。



アユタヤ日本人町の入り口にある碑



山田長政像御朱印船と書かれた標識。

1601 年、徳川幕府は、日本を出港する商人らの船に海外渡航を許可する朱印状を与え、貿易を行わせるようにした。朱印状を与えられた船が朱印船。銅・硫黄・刀剣などを輸出し、生糸・絹織物・綿布などを輸入した。交易が盛んになるにつれて、移住する日本人が増え、日本町がつけられた。



椰子のジュースが売られていた。美味しい。



木の根に埋め込まれた仏像

23. アヤタヤ遺跡

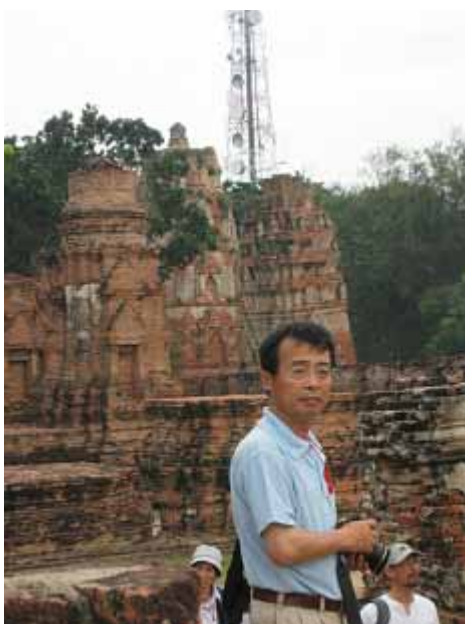
アユタヤは、1350年に築かれたアユタヤ王朝の都。アユタヤは水運を利用し、近隣だけでなく中国、ペルシャ、遠くヨーロッパとも交易を広め、最盛期には東南アジア最大の都市へと発展した。

アユタヤの王は上座仏教を信奉し、都に数多くの寺院や宮殿を建立。今日残っているほとんどは、都ができて150年の間に建てられたもの。

35代にわたって続いたアユタヤ王朝も1767年、ミャンマーの軍勢によって滅亡。現在のアユタヤは、この侵攻により廃墟となった遺跡が残され、当時の面影を伝えている。

ワット・プラ・ラーム

謎に包まれた13世紀の名残。木の根に埋め込まれた仏像が有名な寺院。



頭部が盗まれて無くなっている仏像



アユタヤの名物は象乗り。付近のコースを 20 分くらいで 400 バーツ。



象と一緒に写真を撮る。象のモデル代は 300 バーツ。本当に良くしつけられている。

ワット・ブラ・スイ・サンペット

苔むしたセイロン様式の仏塔が時代の栄華を偲ばせるアユタヤ最大規模の寺院。歴代の 3 人の王が眠るタイのもっとも重要な王宮建物。



ワット・ロカヤ・スタ

大草原に悠然と横たわる高さ 5m、全長 28m の白い巨大寝釈迦仏像。

国際会議 DiMAC-2005 日本からの参加者

(International Conference on Disaster Management: achievements and challenges)

滞在期間	所属	氏名
15日～22日	愛媛大学	高橋治郎, 岡村未対, 矢田部龍一, ネトラ・プラカシュ・パンダリ, 中島淳子
	香川大学	長谷川修一, 山中 稔
	広島大学	北川隆司
	四航コンサルタント(株)	林 宏年
	(株)環境地質	稲垣秀輝
17日～22日	愛媛大学学長	小松正幸, 晴恵
	(株)荒谷建設コンサルタント	山下祐一
	(財)地域地盤環境研究所	山本浩司
17日～23日	名古屋工業大学	増田理子, 牧由芳子(増田さん長女), 牧由樹子(次女), 石田智佳子(学生)
17日～24日	(株)第一コンサルタンツ	右城 猛, 右城絹枝(妻), 右城怜佳(娘), 大西一賢
	(株)芙蓉コンサルタント	須賀幸一, 須賀律子(妻)

・スケジュール(2005年11月17日～24日)

日付	時間	行動	場所	宿泊
17日	01:25 12:30 13:30 14:00～	関空出発 ネパール到着 ホテル到着 市内観光	関空 カトマンズ空港 Radisson Hotel	Radisson Hotel Kathmandu
18日	午前中 11:00 16:10～6:30 16:50～17:10 18:00 18:30	自由行動 国際会議開会式 大西君研究発表 理事長所見 ラディソンホテル出発 食事会	Radisson Hotel Hotel Dwarika	
19日	5:00～17:00 18:30～	カトマンズ市内, 郊外観光 シンポジウムパーティー	Radisson Hotel	
20日	11:00～13:00 13:00～17:00 18:00～21:00	技術士会昼食会 元留学生会とのパーティー	Radisson Hotel Radisson Hotel	
	07:30 09:25 11:00	ホテル出発 ポカラへ出発 ホテル到着 自由行動	カトマンズ空港 Fishtail Lodge	
22日	08:00 09:00 09:30 13:40 18:10	ホテル出発 ポカラ出発 カトマンズ空港着(国内線) ネパール発(国際線) バンコク着	ポカラ空港 カトマンズ空港 カトマンズ国際空 港 バンコク泊	
23日	23:59	バンコク発	バンコク空港	
24日	07:30	関空到着	関空	